

海外日本庭園再生プロジェクトの概要 平成29年度～

背景と課題

- 海外における日本庭園は、日本の魅力を分かりやすく発信する重要なコンテンツの一つとして対日理解の促進とともに、インバウンド促進に貢献。
- 海外では500箇所以上の日本庭園が存在するが、適切に維持管理がなされていないものがあり、その保全再生が大きな課題。
- 「明日の日本を支える観光ビジョン」(平成28年3月30日決定)において、「海外日本庭園の再生プロジェクトを実施」が明記。

内容

修復・改修が必要な海外日本庭園の状況

- 在外公館への調査によれば、都心部や観光地に立地し、多くの利用が認められる日本庭園のうち、施設の経年変化や長年の植栽の放置による樹木の肥大化などにより、修復・改修や集中的な剪定・植替えなどが必要な庭園数は、約40件存在している。
 - 求められている支援内容は、技術協力で足りるものから、資材や改修作業等に係る資金調達を必要とするもの等様々である。
 - この他、日本の造園関係団体等が把握する修復要望もある。
- <整備後に荒廃した日本庭園の例>

イギリスバプールに整備した日本庭園(1984年)



オランダハールレマミアに整備した日本庭園(2002年)



海外における日本庭園保全再生方策検討調査

日本庭園の修復に係るモデル事業の実施、外国人技術者でも庭園の維持管理を適切に行うことのできる、分かりやすい維持管理マニュアルの整備等を通じ、海外における日本庭園の修復要望に応じていくための体制の構築を図る。

修復のモデルとなる海外日本庭園を選定

- ・修復計画の作成
- ・修復事業の実施(日本からの造園技術者の派遣等)

- ・現地の造園技術者向けの講習会の実施
- ・外国人技術者でも分かりやすい維持管理マニュアル(多言語)の整備
- ・庭園技術者の派遣調整システム、修復作業に必要な資材・機材調達の支援体制など、海外日本庭園を修復するための体制の構築

施策の効果

- 海外における日本庭園が適切に維持管理されることにより、対日理解の促進や、インバウンド促進、さらには造園業界の海外展開が図られる。